

MACF礼拝説教要旨

2021年6月27日

【神の国を生きる】

ローマの信徒への手紙14章16～19節

16 ですから、あなたがたにとって善いことがそしりの種にならないようにしなさい。

17 神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。

18 このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます。

19 だから、平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。

+++++

いくつかの事柄を確認しながら心に留めたいと思います。

1)自分の価値観が必ずしも他の人と同じではないことを知ること。

自分も人もそのことで、安易にとがめないこと。

私たちはそれぞれを価値観を持っています。それぞれの背景や文化によってその価値観は変わってきます。

クリスチャンの価値観とそうでない人の価値観は必ずしも同じではありません。

そして、クリスチャンの価値観の方がそうでない人の価値観より上とか下とかいう

見方は必ずしも健全ではありません。

いろいろな場面でキリスト教文化の方が、そうでない人たちの文化よりも

高尚で正しいのだという思いに駆られて、いろいろなものを軽蔑したり、破壊したり、その文化になじまない判断の仕方を強要したりということがなかったかどうか

吟味する必要があると思います。

こちらは「正しいと思ってやっていること」が相手にとっては「迷惑を感じる」

ことも少なくありません。クリスチャン同士であっても同様。そうでない場合には

深刻な問題になることがあります。

2)神の国に生きるとは

神の国に生きるとは単純に「天国で永遠に生きる」という意味だけではありません。むしろ、今、この時、神の国を経験しながら生きられるとを体験する、追求する必要があると思います。

パウロは

17 神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。

と書きました。

飲んだり食べたりということの中に喜びを感じられるのは幸いですが、食欲や所有欲が満たされて幸せというのとはちょっと違います。やった！得した！ゲットできたぞ！という喜びとは違う面が大きいです。

神の国を生きるというのは、

ふと気づいて、「これは神様の働きだなあ」としみじみ感謝できる心から始まります。神の国というのは「神の支配」と理解されています。

そこで神の国に生きるとは「神の支配を信頼し、神の支配の中に生かされていることを喜びながら、神の働きによってもたらされる義、（これは正義、解放、救いなどですが）を日常的に経験し、さらに、神様の働きによって、もたらされる平和と喜び、これらは十字架の恵みと赦しのことばかりでなく、小さな出来事の中に平和、喜びの種や花をたくさん見つけ、それを味わいながら生きるという出来事全体を指しています。こんなの当たり前、という発想は、ちょっと残念ですね。

日常的な出来事の中で「美しいものを発見したり、嬉しいことを経験したり、神様のことを思って心が温かくなったり」、それらは「神の支配」によるこころの経験であり、パウロが大切にしている生き方です。キリストに仕えるという生き方は、まさに、この神の国での経験を深めつつ生きることと連動しています。神による解放を味わい、平安と喜びを心に感じながら生きるのです。主役は神。そのお方が祝福を心にもたらしてくださるのです。

3) 神にも人にも

その結果「神にも人にも喜ばれる」ということが可能になってきます。そして神と人とを心から大切にしていこうという意欲もふくらんできます。自制心も養われてきます。そこでパウロはこういう結論付けをしています。

18 このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます。

19 だから、平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。

平和と互いの向上に役立つことを考えながら、実行しながら生きるという姿勢が求められています。

「互いの平和」これは赦しあい、会話のキャッチボールをうまくできるようにすること、相手の祝福を祈り、相手の幸福を喜ぶ心を育てることです。

「互いの向上に役立つこと」を実行するとは、「そしり」を受けないように慎み深さをもって「相手にとっての最善を考えること」「大きなことをしてあげる」ということではなく、「無理なく継続できる相手に対する善意を表明してみること」

相手から「イエス」と言われても「ノー」と言われても、それで一喜一憂しない心を持つことの訓練が必要です。

今朝の聖句をしっかりと読んで、今の自分の状況をもういちど吟味し、姿勢をただしたいと思います。

祝福がありますように。

関根一夫

【MACF礼拝映像はこちらです。】

<https://youtu.be/AZuvhGjFVF8>

+++++